

## 大会実施要項（抜粋）

### 1. 競技種目と出場枠

**\*資格から外れている選手の出場は一切認めませんので、間違いのないよう確認をお願い致します。**

競技種目	出場枠	出場資格	注意事項	選手変更
男子個人実戦競技	2名	初段以上の男子	面ビット（選択可）※5・プロテクター着用	不可
女子個人実戦競技	2名	初段以上の女子	面ビット（選択可）※5・プロテクター着用	不可
男子個人法形競技	2名	原則として初段以上の男子 ※1	1・2回戦：変体 3回戦：自由※4	不可
女子個人法形競技	2名	原則として初段以上の女子 ※1	1・2回戦：変陰 3回戦：自由※4	不可
男子団体実戦競技	1チーム	原則として初段以上の男子 ※1	1チーム5名 ※2 面ビット（選択可）※5・プロテクター着用	可
女子団体実戦競技	1チーム	原則として初段以上の女子 ※1	1チーム5名 ※2 面ビット（選択可）※5・プロテクター着用	可
男子団体系形競技	1チーム	原則として初段以上の男子 ※1	1チーム5名 体の法形から自由	可
女子団体系形競技	1チーム	原則として初段以上の女子 ※1	1チーム5名 陰の法形から自由	可
男子団体展開競技	1チーム	原則として初段以上の男子 ※1	1チーム6名 背番号着用	可
女子団体展開競技	1チーム	原則として初段以上の女子 ※1	1チーム6名 背番号着用	可
新人団体系形競技	2チーム ※3	平成26年4月以降に剣道部に 入部した3級以下の男女	1チーム5名 旋体・旋陰から選択	可

※1：「原則として初段以上」とは、監督の推薦があれば下記の級位も出場可とするという意味です。

但し、出場種目申込み時に、「種目別出場選手申込書」のエントリー情報欄に監督推薦者であることがわかる様チェックを入れるとともに、各大学の監督は同申込書及び本要項の内容を確認し、提出を承認することを「書類確認・提出承認書」の提出により明示してください。

**なお、監督推薦は人数不足などの理由で出場させるのではなく、あくまで参加できる相当の実力を有していると監督が判断した選手に限り、推薦するようお願いします。**

<監督推薦の基準>

9月9日（火）までに下記の級位を取得しているものに限る。（見込み不可）

競技種目	監督推薦出場資格
個人法形	監督推薦により2級以上も可
団体系形	監督推薦により4級以上も可
団体展開	監督推薦により4級以上も可
団体実戦	監督推薦により1級以上も可

※2：団体実戦競技においては原則として1チーム5名ですが、3人以上でエントリー可とします。

※3：新人団体競技においては、最大2チームまで出場可能です。

このとき、旋体チームには3人以上男子選手・旋陰チームには3人以上女子選手をメンバーに入れてください。補欠選手により選手構成が変化する場合もこれを守ってください。前述の規定内であれば出場するチーム数を問わず、体・陰の指定はありません。

なお、2チーム出場の場合、同一選手が2つのチームに重複して出場することはできません。

※4：個人法形競技の指定種目は1・2回戦＝「変」、3回戦以降 自由です。

※5：面ピットは男女共に着用を選択できるものとします。ただし、団体実戦で監督推薦により級位の選手が出場する場合は、男女共に必ず面ピットの着用を義務付けるものとします。

## 2. 出場資格と制限

### (1) 出場資格

日本剣道協会に登録されている大学（大学院は除く）・短期大学の剣道部の部員で、「一般会員」は平成26年9月分までの「協会費」、「正会員」は平成26年度の「正会員費」を支払済みであること。

※一般道場生

協会費または正会員費及び大会出場費の納入を条件に、個人種目に限り出場を認めます。

※看護学生等

剣道部のある大学に学舎を持ち、同大学の剣道部員として活動し、上述の規定に準じている者は出場を認めます。

※医学部5・6年生、留学生

あくまでも大学生であることから、上述の規定に準じていれば出場を認めます。

### (2) 出場制限

1人3種目までとし、これに違反した場合は該当選手の出場種目すべてについて失格となります。

「(3) 推薦選手枠」に該当する選手にも、この出場制限が適用されるので注意してください。

### (3) 推薦出場枠

前年度個人種目ベスト3選手のうち、平成26年度も大学剣道部員の場合は、出場枠とは別に実行委員会の推薦で出場できます。

### (4) 補欠制度

全ての団体種目に関して、大会途中怪我などによる棄権者がでた場合、申し込み時にエントリーされている補欠者各1名を出すことができる制度。補欠も1種目とするため、補欠種目も含め3種目が上限となります。

### <補欠適用条件>

- ・競技中の怪我によりドクターストップが下され、申し込み時よりエントリーされた補欠者がいる場合のみ、次の試合より変更可能。
- ・変更の際は、各コート責任者に必ず報告し、本部で承認されてからの変更となる。
- ・一度補欠を適用した後は、元の選手が回復したとしても戻すことはできません。
- \* ドクターストップが下された場合はいかなる理由でもその後の試合には参加できません。  
ドクターの判断を無視した場合は、全ての競技の得点が無効となりますので注意してください。

### (5) 注意事項

全ての競技種目において、出場資格と制限から逸脱して競技に出場していることが発覚した場合、故意または過失に係わらず、当該選手の所属する大学が出場する全ての競技の得点が無効となりますので、注意してください。

### 3. 選手の遵守事項

- (1) 出場選手は「躰道五条訓」を練習しておいてください。
- (2) 大会当日には、学生証・「健康保険証」を必ず持参してください。持参せずに写しで治療を受ける場合、一部の病院では医療費の全額支払いを求められる場合があります。
- (3) 出場選手は日本躰道協会公認の躰道着を着用してください。躰道着の左右の上腕部に大学名や個人名を入れることや、一般的な常識範囲内のマークを取り付けることは認められています。
- (4) 出場選手は、躰道着の背面部に所属する大学名のゼッケンを必ずつけてください。ゼッケンの無い選手の出場は認めませんので注意してください。  
なお、ゼッケンの大きさは、縦7cm×横20cmとし、白い布地に黒字（漢字）とします。
- (5) 団体展開競技に出場する選手は躰道着の背面部に背番号のゼッケン（主役＝主・旋技＝1・運技＝2・変技＝3・捨技＝4・転技＝5）を、必ず取り付けてください。  
なお、背番号ゼッケンの大きさは、約20cm四方とし、白い布地に黒字とします。
- (6) 実戦競技に出場する選手は、指定プロテクターを必ず躰道着の下に着用してください。また、面ピットは男女ともに着用を選択できるものし、着用する場合は、日本躰道協会公認の面ピットを着用してください。ただし、級位選手が実戦競技に出場する場合は、面ピットを必ず着用してください。なお、プロテクターは1階競技会場に入場する前に着用し、会場での取り付けは一切しないようにお願いします。
- (7) 出場選手は、自身の段級位に合致した帯を着用してください。

以上の規定に違反すると失格となりますので、注意してください。

更に、以下の場合も出場できないので注意してください。

- ・ 躰道着の背面部に、所属大学名又は背番号のゼッケン以外の物を取り付ける。
- ・ 故意に団体展開競技の番号に、団体・大学名を入れる。
- ・ 左胸部の「躰道」のマークを他のものに替える。
- ・ 袖口や袴を、短く切ったり捲ったりする(中段構えの際に、肘が出たりふくらはぎが出ているものは違反と見なします)。

#### 4. 競技の判定

本院公認審判(研修生も含む)に審判を依頼し、「審判規定」に則って各競技の判定を行います。各競技の結果に従って、「総合成績※1」や「最優秀選手・優秀選手※2」「技能賞※3」を決定します。

##### ※ 1 「総合成績」(優勝・2位・3位)・・・

各種目の入賞得点を、「優勝」=10点、「2位」=6点、「3位」=3点、「4位」=1点として計算し、大学単位で合計得点の高い順に表彰します。

同位の場合には、優勝→2位→3位→4位の順で多い方を上位とします。

##### ※ 2 「最優秀選手(1名)・優秀選手(2名)」・・・

大会会長・審判審議長・審判長の協議によって選出・決定します。

なお試合の状況により、該当選手がいない場合もあります。

##### ※ 3 「技能賞(1名 もしくは 1チーム)」・・・

今年度のテーマである『変技』の優れた選手・もしくはチームを表彰します。

大会会長・審判審議長・審判長の協議によって選出・決定します。

なお試合の状況により、該当選手がいない場合もあります。